

令和7年（2025年）2月16日（日）

本日、「令和6年度<sup>恩賜
財団</sup>済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ松山市において開催されますことを誠に喜ばしく思います。

済生会は、明治44年、1911年に明治天皇の済生勅語により創立されました。爾来、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力によって、今日では日本最大の医療・福祉団体となり、全国各地で医療・保健・福祉の総合的なサービスを担っております。

ここ愛媛県内においては、済生会松山病院をはじめ4つの病院と診療所が地域に根差した、患者にやさしい医療を展開しています。そして、介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど、多くの施設が活動しており、各施設の職員の方々は、昼夜を問わず、地域の医療と福祉の推進に懸命に取り組んでおられます。

また、瀬戸内海では、私も以前に視察いたしました、日本で唯一の巡回診療船「済生丸」を運行しております。瀬戸内の島々を巡りながら、診療と予防医療を提供し、離島で暮らす人々の健康管理に尽力しています。

さて、この1年間を振り返りますと、昨年元日に石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。その際には、発災直後より、済生会金沢病院が、地域住民の避難と被災患者の受入れを行い、各病院のDMAT隊は、直ちに被災地に入り災害支援活動を行いました。私は、1月と2月に現状報告を受け、2月には、金沢病院を訪問しました。被災患者の受入れが金沢病院に集中する中で、全国の済生会病院より看護師をはじめとする本会の職員が応援に入り、多くの被災患者の受入れを行うことが出来たこと、そして、済生会が一致団結して災害対応に取り組んだことに深い感銘を受けました。

また、昨年9月には、JR大阪駅周辺地区に移転・新設された大淀南医療福祉総合施設を視察しました。新しいまちづくりに向けて取り組んでいる同地区で、この施設が乳児院、特別養護老人ホーム、リハビリテーション病院、看護学校との連携を図り、済生会独自の地域包括ケアシステムを展開していくことを期待しています。

済生会は、今日にいたるまで、多くの役割を担ってきておりますが、これは、今後さらに増大するものと思います。『施薬救療』の精神という揺るがない理念の下、全ての役職員が一丸となって地域住民の健康と暮らしを支えるため、その使命を果たしていくことを希

望いたします。

おわりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の多年のご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表します。そして、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。